

研究情報

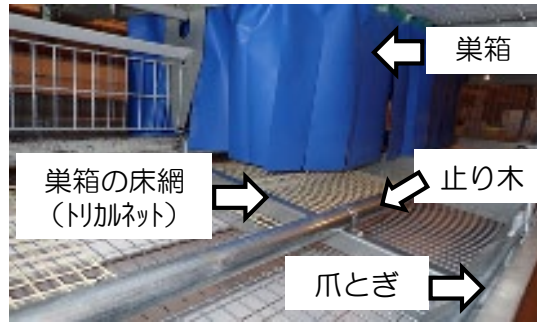
国産エンリッチドケージの試作の取り組み

欧州連合（EU）では、アニマルウェルフェア（家畜福祉）の観点から2012年以降に従来型ケージ（バタリーケージ）での鶏の飼養が禁止され、鶏の正常な行動の発現に配慮した改良型ケージ（エンリッチドケージ）が発案されました。今後、我が国でEUと同様の流れになるかは不明ですが、エンリッチドケージのメリット、デメリットについて把握することは重要です。

そこで、EU基準に準じたエンリッチドケージを国内メーカーのヨシダエルシスと共同で試作し、生産性や行動についてバタリーケージと比較しました。

試作したエンリッチドケージは、幅243cm、奥行64cm、高さ55cmの大きさで、1ケージ当たり20羽の採卵鶏を飼養できます。鶏1羽当たりの床面積は776cm²で、従来型のバタリーケージ2羽飼いと比べて85%広がっています。

鶏本来の行動を促すため、ケージの中には、落ち着いて産卵するための巣箱、止り木、爪とぎ、砂浴び場が設置されています。



試作エンリッチドケージ

エンリッチドケージは、バタリーケージと比較して、産卵率や日卵量は低くなりましたが、飼料摂取量が少ないため、飼料要求率には差がなく、生存率は高くなりました。

一方、エンリッチドケージは、破卵や汚卵の割合が高くなり、改良が必要ながわかりました。



エンリッチドケージ
(アニマルウェルフェアに配慮した飼養方法)



バタリーケージ
(従来の飼養方法)

また、試験開始時には、ほぼ同等だった爪の長さは、エンリッチドケージでは、爪とぎの効果で爪先が丸く削られて短くなりました。

試験結果から、エンリッチドケージでの改良点やエンリッチドケージに適する品種があることがわかりました。

今後、さらに大型のエンリッチドケージを設置し、国産鶏を利用して暑熱対策と組み合わせた試験を行います。



爪とぎの利用と爪先の比較

普及情報

食育授業が再開されました「やまゆりポーク」

やまゆりポーク生産者協議会では、各会員が経営を行っている地域の市と協力し、給食用豚肉の寄贈や寄贈した豚肉を使用したメニューによるふれあい給食、会員自らの食育授業を行っています。普及指導課では、食育授業の中で県内や各市町村の県内市町村の畜産の情勢についての授業を担当しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、しばらくの間中止していた食育事業を新規感染者が減少したことから、10月に再開しました。今回、藤沢市内の小学校で実施した食育授業では、感染症対策として、通常は1学年全員が体育館に集合して受ける授業を、クラスごとに3回に分けて実施しました。

市役所や対象小学校も食育に熱心で、やまゆりポークの食育授業に加え、同日に市職員により、バターづくり体験も実施されました。給食では、やまゆりポークを使用した「豚丼」が提供され、児童たちに大好評でした。



授業の様子

普及情報

酪農家が耕作放棄地を花畑に変える

伊勢原産牛乳プロジェクト*では、11月に伊勢原市立高部屋小学校の5年生の総合学習授業を「酪農家が耕作放棄地を花畑に変える」というテーマで、体育館での授業と圃場での実習により行いました。

授業では、酪農家が「酪農家の1日」、「牛の一生」、「牛の体と飼料」などについて、クイズを交えてテーマごとの食育タペストリーを利用しながら説明しました。その後、伊勢原市職員が市内の耕作放棄地の現状、酪農家が耕作放棄地の復元への取り組みなどについて説明しました。最後は、タカナシ乳業から提供された「いせはら地ミルク」を児童たちが試飲して授業は終了しました。

実習は、耕作放棄地を復元した圃場で行いました。児童たちは班ごとに分かれて、20aの圃場で菜の花の種まきや雑草とりなどを行いました。

高部屋小学校の校歌には「菜の花つづく丘の道」、「乳とる牛もよく肥え」などの歌詞があり、校歌の内容を再現する授業となりました。

*伊勢原産牛乳プロジェクトは、伊勢原産牛乳の販売を通じて、地産池消、地域活性化を推進し、地域住民の健康で幸せな暮らしに貢献するとともに、県内酪農の発展に寄与することを目的に活動している伊勢原の酪農家を中心としたプロジェクトです。この活動は、伊勢原市民、伊勢原市、神奈川県などが支援しています。



プロジェクトメンバー



酪農クイズに手をあげる児童たち



一列になって種まきをする児童たち

研究情報

県内企業との共同研究の発明が特許登録されました

県内企業（株式会社ガステック：綾瀬市）との共同研究で発明した「放散ガスを利用したサイレージ品質の評価方法」が特許登録されました。

この技術は、ロールバールサイレージから放散されるガスを指標にして、中身のサイレージ品質を開封せずに判定するための技術です。この技術を利用したサイレージ品質を判定する商品は開発途中ですが、商品化を目指して研究を続けています。

発行 神奈川県畜産技術センター

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/g8f/index.html>

〒243-0417 海老名市本郷3750 電話(046)238-4056

ファクシミリ(046)238-8634

